

7. 災害の記憶伝承の取組

外所地震（宮崎市島山地区）

外所（とんどころ）地震は1662年10月31日（寛文2年9月20日）未明に発生し、地震は日向灘沖でマグニチュードは7.6、最大震度は推定6でした。死者は約200人、約3800世帯の家が壊れ、宮崎市の木花地区を中心にして宮崎県沿岸のほぼ全部に被害があり7つの村が水没しました。

その後、この大きな災害を後世に伝えるために、供養碑が建立されました。

供養碑は右から1基目と2基目は壊れており、3基目は1805年、4基目は1862年、5基目は1925年、6基目は1957年、7基目は2007年（平成16年）に建立され、今は50年に1基を建立して災害の記憶を伝承しています。



写真7.1 外所地震供養碑



昭和32年から50年後の平成19年に建立され7基目となっており、地域の住民が供養碑の敷地をいつも管理しています。
まさに、災害の記憶を伝承している実例といえます。

三百五十回忌追悼供養を通り、諸々の犠牲を忘却することなく、大自然にたいし畏敬の念を持つことと、防災の大切さを後世に伝えた
いがため、この供養碑を建立した。

写真7.2 350回忌供養費

【島山地区の取組】

現在は防災訓練として、避難訓練や図上訓練、研修会などを行い、日頃から活動していますが、地区全体としてはまだ十分ではない状況です。しかしこれを継続していくことが今の私たちの努めであり、責任もあります。

（当時の自主防災組織の副会長談）

7. 災害の記憶伝承の取組

新燃岳の噴火（高原町狭野神社）



新燃岳大噴火乃碑

新燃岳の噴火から 6 年。

高原町狭野神社宮司は、噴火に伴う避難により神社を離れる心苦しさを経験したことから、噴火による様々な被害を風化させず、後世に伝えていくために、関係者の協力を得て「新燃岳大噴火乃碑」を建立しました。

写真7.3 新燃岳大噴火乃碑

五ヶ瀬川の畠堤（延岡市北町）



写真7.4 畠堤記念碑

畠堤記念碑

畠堤は五ヶ瀬川を含め全国の3つの河川に存在している珍しい特殊堤であり、現在980mの長さがあります。

大正から昭和の初期に造られたもので、堤防上に橋の高欄風のコンクリート枠で、上から畠をはめ込む7cmほどの隙間があります。洪水時には住民が自らの畠を持ち寄ってこの隙間にはめ込み、水を防いきました。

先人の知恵による住民の協力からなる治水対策といえます。



写真7.5 畠堤記念石像

北川河川激甚災害対策特別緊急事業竣工記念碑（延岡市北川町）



写真7.6 記念碑

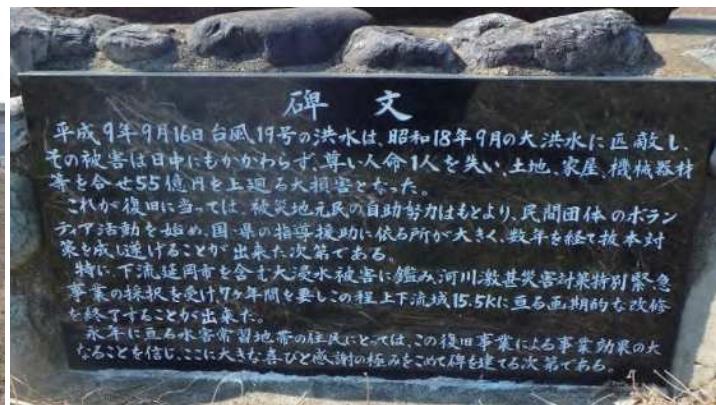


写真7.7 記念碑 碑文

北川河川激甚災害対策特別緊急事業竣工記念碑

平成9年9月の台風第19号に伴う豪雨により北川が溢水し、広範囲にわたり激甚な被害(浸水面積約880ha、浸水家屋等約1900戸)が発生しました。平成16年10月、河川激甚災害対策特別緊急事業による河川改修が完了したことから記念碑が建立されました。

復興への願いを込めた植樹祭（椎葉村）

災害跡地は一年前に
り面や砂防堤を整備して
復旧終えたものの、被
災前の飲食店や旅館がけ
ち並んだ状態には程遠い
状態だった。

100年後の台風14号で三人になつた
椎葉村中部の災害跡地で八日、復興への願いを込めた植樹祭(平成16年9月)が開催された。委員会主催があつた。村民120人がドウダツシングの苗木五百本を植え、「悲惨な思い出が残る地を花の名所に変えます」と決意を新たにした。(2面)「復興願い会の東成海・まつり会の会長のひとこと」

復興願い、椎葉村民300人植樹



花台風被災地
の名所に

り会(東成海会)が公
園化整備を継続し、植樹祭
を企画。村や地元住民、
商店街に呼び掛けで同委
員会が結成され、(同)九州
電力からも支援を取り付
けた。植樹祭では、スコップ
と秋の紅葉が楽しめる下
りで、「村民が憩える空間
に変えて」と、希望を込めて
植樹祭が開催された。現地で食
べた中嶋さん(50歳)は、「あの時の土砂の
音は今でも耳残っています。植樹は前向きに頑
張らうとする村民の熱い
思いが込められています」と話した。



写真7.8 被災状況



写真7.9 現在の様子

復興への願いを込めた植樹祭

平成17年の台風第14号に伴い土石流による被害が発生した箇所において、砂防堰堤等の整備後に村民が復興への願いを込めて植樹祭を実施しました。現在は「村民が憩える空間」を創出しています。